

# 子供たちの学力向上を確実に図る校内研究の充実に向けて

～1年間の校内研究を振り返り、次年度へつなぐ～

西部教育局  
お役立ち情報  
令和6年2月号

3学期は、子供たちにとって、1年間の学習のまとめをする時期であると同時に、先生方は1年間の校内研究のまとめをする時期でもあります。今年度の校内研究の取組によって子供にどんな力が付いたのか、どんなことができるようになったのか等、今年度の成果と課題を把握し、次年度の校内研究の組み立てにつなげていきましょう。



## 次の4つの視点で今年度の校内研究をチェック！

### ①「研究のまとめ」の完成がゴールになっていませんか？

せっかく時間と労力をかけて研究のまとめを完成させたのに、あまり活用できていない。



いつでも手に取って見られるよう、研究の進め方や検証結果、履歴などを図や表などで視覚的にまとめましょう。リーフレット形式も効果的です。

### ②各種調査やアンケート結果を有効に活用できましたか？

保健室の利用状況や生活実態調査などは、学力向上にどのように活用されているのかしら。



授業や学力テストなどの得点だけでなく、各種調査のクロス集計、アンケート等を活用しながら子供の実態を的確に把握し、活用へつなげましょう。

### ③子供の変容について、具体の姿が浮かびますか？

教師が何をしたかについては語るができるけど、子供の姿はどうだったかな。



子供が何に困っていて何ができるようになったのか、成果指標に基づいて客観的に見取りましょう。

### ④取組の成果を、全職員で共有できていますか？

今年度の研究の取組の成果について、全員が同じことを言えるだろうか。



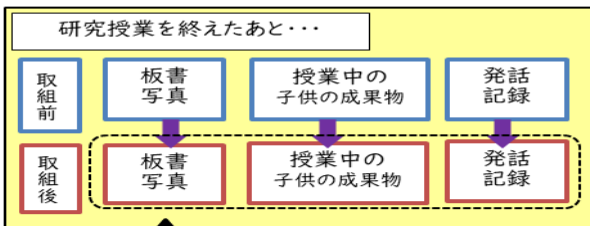
今年度の校内研究の取組について、どの学年でも、どの教科でも活かせることは何か、全職員で確認しましょう。

### 取組①

## 他校と取組の共有をして自校の研究の充実へつなげる！

### 取組②

本校の「研究のまとめ」は、研究授業の記録だけでなく、校内研究だよりやワークショップの成果物を掲載しています。また、授業の取組前と取組後の板書、ノート、発話記録などを上下に並べ、比較することで、子供の変容を見取りやすくしています。



何がどのように変わったのかを具体的に見取ることができる。

本校では、学校教育目標を基に、年度当初に設定した成果指標・目標値等に照らして、取組そのものの効果についても検証しています。

指標を設定することで、目的が具体化、明確化されるので、子供の変容や取組の成果を全職員で実感することができます。



なるほど、年度当初に成果指標・目標値を設定することで、より客観的な見取りができるんですね。

今年度中に成果指標に使えるようなデータは何かを考え、そろえておかななくては・・・



## 取組の反省を次年度につなぐ！

## 校内研究のサイクル

**A:Action**  
(改善)  
成果と課題を確認し改善を図る

**R:Research**  
(状況把握)  
子どもたちの実態を把握し、伸ばしたい力の明確化

**C:Check**  
(振り返り・評価)  
目標に照らした評価を行い、仮説を検証する

**D:Do**  
(実行)  
仮説を立てて実施する

**P:Plan**  
(計画)  
学校教育目標を基にした授業研究の目標計画を設定

## ☆今年度の取組から次年度の研究の方向性を定め、スムーズな新年度のスタートに向けた準備をしましょう！

◆3学期のうちに、その年に実施した学校評価や学力調査・アンケート等を生かした「現状把握」や「分析・診断」、「課題づくり」までを実施し、学校目標が達成できたかを具現化し、校内研究のサイクルを教職員と確認し、共通理解します。

⇒4月のスタートは新たなメンバーでの「組織づくり」からはじめることができ、早い時期に「実践」に移ることができます。4月当初、子供と触れ合う時間を多くもつことができるというメリットもあります。

